

平成 21 年 3 月 11 日現在

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：平成 18 年度～20 年度

課題番号：18592395

研究課題名（和文）

変化ステージ理論に基づく禁煙支援の看護教育・実践に導入するモデル作成

研究課題名（英文）

Model to introduce into education / practice program on smoking cessation for nurses based on the change stage theory

研究代表者

嶺岸 秀子(MINEGISI HIDEKO)

北里大学・看護学部・教授

研究者番号：20258883

研究成果の概要：

研究者は、教育・看護実践に禁煙支援を導入して浸透させるモデル化を作成することを目的に実施してきた。そのため 18～19 年度に、異なる施設の看護師に、たばこコントロールプログラムの看護教育を実施した。その結果からは、臨床の看護師が学んだ知識と技術を、喫煙者（患者、同僚、看護師、家族、友人）に、どのように活用していくのかについての知見が得られた。

成果 1 として、看護師への教育・実践への導入過程で、3 つの局面からなるモデルを明らかにできた。局面 1 は、「知識を得る：たばこコントロールプログラムを体験する」。局面 2 は、「知識と現実を摺り合わせる：受講後 3 ヶ月経過した時点のグループ面談で、喫煙者への禁煙支援の試行体験を語りながら知識と現実を摺り合わせる」。局面 3 は、「試行した喫煙者の個性性を考慮した禁煙支援への変化：終了後 6 ヶ月あるいは 9 ヶ月経過した時点の面談では、看護師自ら喫煙者と交流を深めて情報の提供・発信や、喫煙者の個性性を考慮した禁煙支援の実践を語る変容が見られた」。受講した喫煙看護師の中には自ら行動変容に至る人もいた。成果 1 から、20 年度の予定であった Step4. 看護師による「禁煙の必要な患者・対象者へ禁煙支援が実践でき、周囲に影響を与えられる」を達成できた。

成果 2 は、研究方法として用いた禁煙支援の看護教育・実践の方法を洗練化できたことである。具体的には「講義 1 回目 90 分：禁煙への動機付けを促すカウンセリング法、ロールプレイング「4 つの禁煙ステージ」。講義 2 回目 90 分：喫煙と健康への害、社会の動き、グループ対話「禁煙指導における看護師の役割」。そして、2 回の講義前後に質問紙調査を実施するだけでなく、新たに受講後 3 ヶ月と 6 ヶ月（あるいは 9 ヶ月）の時点で計 2 回のグループ面談を実施し、無記名の感想文の提出を依頼することを加えた点である。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
平成 18 年度	1,000,000	0	1,000,000
19 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
20 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	2,700,000	510,000	3,210,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学

キーワード：1) 変化ステージ理論、2) 禁煙支援、3) 看護教育・実践、4) がん予防
5) モデル作成

1. 研究開始当初の背景

共同研究者が保健医療学部生向けに開発した、たばこコントロールプログラムに、新たに2回のグループ面談を追加してパイロットスタディを実施した。

対象とした看護師らの年齢は20～50代で質問紙調査から[禁煙指導への意欲]はあり、禁煙指導への責任を感じ、たばこ対策を健康問題として重要と考えていた。しかし、過去に[受けた教育]の実態においては、たばこの害と依存性に比べて禁煙指導が低く、[教育への自信]も低かった。そのためか、保健医療学生が学校教育の中で、患者への禁煙指導方法を教授される必要性(6.2±0.5)を高く求めた。一方で、喫煙する保健医療従事者への看護師による態度は、受講前(4.1±1.1) 後(4.8±1.8)、保健医療従事者は禁煙者として規範となるべきも、受講前(4.1±0.7) 後(5.4±1.8)で、共に学部生よりも低く、全館禁煙に関しても、より寛容な態度であることが分かった。禁煙教育の知識・方法が不足していることが明確であった。

2. 研究の目的

1) 禁煙支援プログラムをを実施した前後の変化を明らかにする。

2) 受講した看護師がその知識をどのように活用して変化するのかを明らかにする。

3) プログラムの浸透に向けて、看護師による禁煙支援の取り組みを明らかにしてプログラム実践のモデル化を試みる。

3. 研究の方法

1) ポスターで参加を募った病院看護師にプログラムを実施し、前後で質問紙調査(統計処理)。プログラム：1回目90分は、喫煙と健康への害、たばこに関する社会の動きの講義。禁煙指導における看護師の役割を討論。2回目90分は、禁煙への動機付けを促すカウンセリング法。禁煙ステージの要点とロールプレイング。

2) 後日、参加者グループと「プログラムの影響・浸透」について対話し、その逐語録を「禁煙に関する看護師の変化」に焦点をあてて質的帰納的に分析。倫理的配慮：施設の倫理審査を経た。質問紙は無記名でプライバシーの確保に努めた。

4. 研究成果

1) たばこコントロールプログラムを試行した結果、医療施設の看護師にとっても実践で役立つプログラムとして導入できることを確認できた。

看護師の変化としては、プログラム終了3ヵ月後には<振り返り>の中で、周囲の喫煙する友人・家族・同僚に禁煙アプローチを試みた体験や、参加者自身の喫煙・禁煙体験について語った。受講後6ヶ月(あるいは9ヶ月)の時点での看護師らは、院内の喫煙(患者)とたばこを話題に対話を深め、情報を提供していた。自ら「なぜ院内に喫煙室が?」「なぜ自分は喫煙しているのか?」と問い、禁煙宣言に取り組む看護師も出てきた。あるいは病院部署への今後必要なアプローチ案を提言するなど<禁煙・禁煙支援実行から将来へ>向かっていた。

2) 看護師への教育・実践への導入からモデル化に向けては、3つの局面を明らかにできた。**局面1**。プログラム受講の体験から知識を得る。**局面2**。禁煙してほしい喫煙者や、禁煙支援の試行体験について語りながら知識と現実を摺り合わせる。**局面3**。プログラム終了後6ヶ月・9ヶ月経過した時点では、喫煙者の個別性を考慮した禁煙支援のアクションが多様となる変化が特徴的であった。**【考察】**先行研究のたばこコントロールプログラムに2回の対話を新たに追加した本研究方法からは、看護師の教育・実践への導入モデルとして役立つことを明らかにできた。また、看護師による喫煙(患者)者への看護だけでなく、参加した喫煙看護師が自ら禁煙を試みる機会として役立つことがわかった。実施に際しては喫煙体験のある看護師の参加を得ることが重要で、喫煙者にとって理解が深まるだけでなく、参加した喫煙看護師が自ら禁煙を試みる機会となる可能性が示唆された。保健医療者の喫煙に寛容な態度は先行研究と類似しており、今後は保健医療者の喫煙へのアプローチが課題である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

1) 有馬志津子, 三上洋, 矢山壮, 前田冴子, 谷川緑, 嶺岸秀子, 田中彰子, 千崎美登子, 大石八重子, 荻原修代: 病院看護師による禁煙支援の現状とその病院差に関する分析.

日本公衆衛生学会誌(投稿中), 2009

2) Sarna, L., Danao, L., Chan, S., Shin, S., Baldago, L., Endo, E., Minegishi, H. and Wewers, M.: Tobacco control curricula content in baccalaureate nursing programs in four Asian nations. *Nursing Outlook*, Nov/Dec.54: 334-344, 2006.

〔学会発表〕(計 11 件)

1) 嶺岸秀子, 千崎美登子, 荻原修代, 青木繁伸, 三上洋, 有馬志津子, 稲吉光子: 変化ステージ理論に基づく禁煙支援の看護教育・実践への導入モデル. 第 22 回日本がん看護学会 学術集会, 2009, 沖縄. (日本がん看護学会誌, 23(特別):99. 2009 年 2 月 10 日)

2) Minegishi H., Inayoshi M., Aoki S., Arima S., Mikami H.: Tobacco control Program on Smoking Cessation for Nurses. 15th International Conference on Cancer Nursing 2008, Singapore, 2008. [15th International Conference on Cancer Nursing 2008 Conference Program & Abstract Book: 119, 2008] 8 月 19 日

3) 嶺岸秀子, 荻原修代, 小沢学, 水瀬美紀, 石黒富志子, 大石八重子, 三上洋, 有馬志津子, 稲吉光子, 青木繁伸: たばこコントロールプログラム受講後 3 ヶ月における看護師 12 人の取り組み. 第 22 回日本がん看護学会学術集会, 2008, 名古屋. (日本がん看護学会誌, 22(特別): 180, 2008.)

4) 矢山壮, 有馬志津子, 三上洋, 前田冴子, 谷川緑, 嶺岸秀子, 田中彰子, 千崎美登子: 病院看護師による禁煙支援に関連する要因の検討 第 3 報 病院看護師による禁煙支援に関する共分散構造モデル. 第 27 回日本看護科学学会学術集会, 2007. (第 27 回日本看護科学学会学術集会講演集, P172 左, 2007)

5) 有馬志津子, 三上洋, 前田冴子, 矢山壮, 谷川緑, 嶺岸秀子, 田中彰子, 千崎美登子: 病院看護師による禁煙支援に関連する要因の検討 第 2 報 禁煙支援の病院格差に関するマルチレベル分析. 第 27 回日本看護科学学会学術集会, 2007. (第 27 回日本看護科学学会学術集会講演集, 173 右, 2007)

6) 前田冴子, 有馬志津子, 三上洋, 矢山壮, 谷川緑, 嶺岸秀子, 田中彰子, 千崎美登子: 病院看護

師による禁煙支援に関連する要因の検討 第 1 報 禁煙支援や禁煙支援方法に関する学習経験の現状. 第 27 回日本看護科学学会学術集会, 2007. (第 27 回日本看護科学学会学術集会講演集, 173 左, 2007)

7) 河村真理, 嶺岸秀子: 禁煙アプローチの知識を活用した父への禁煙支援-プロセスカの変化モデルに基づく 1 家族事例研究-. 第 21 回日本がん看護学会学術集会, 2007, 東京. (日本がん看護学会誌, 21(特別): 170, 2007.

8) 嶺岸秀子, 稲吉光子, 千崎美登子, 松原康美, 有馬志津子, 三上洋: 変化ステージ理論に基づく禁煙支援を受講した病院看護師の知識と活用の変化-パイロットスタディ. 第 21 回日本がん看護学会学術集会, 2007, 東京. (日本がん看護学会誌, 21(特別): 168, 2007.

9) Minegishi, H.: An Educational Program on Smoking Cessation (EPSC) for Nurses Concerning no Smoking; A Pilot Study. Second International conference Japanese Society of Cancer Nursing (Program book 2: 41, 2007)

10) Minegishi, H.: A Process of Effective Smoking Cessation Support through Dialogue Utilizing the Model of Unitary Human Being. 14th International Conference on Cancer Nursing 2006, Toronto, 2006. [14th International Conference on Cancer Nursing 2006 Conference Program & Abstract Book:212, 2006]

11) 嶺岸秀子: M. Rogers のモデルに基づく対話による喫煙中年女性への支援. 第 20 回日本がん看護学会学術集会, 2006, 福岡. (日本がん看護学会誌, 20(特別): 345, 2006.

〔図書〕(計 1 件)

1) 近藤まゆみ・嶺岸秀子編: がんと共に生きる人への看護ケア. 医歯薬出版, 2006

2) 嶺岸秀子: がん看護に必要な概念(第 7 章がん看護). 成人看護学(黒田裕子編集)(医学書院, 東京, 2009, 135-149

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者: 嶺岸秀子

(2) 研究分担者: 稲吉光子, 久保五月, 向野香織
有馬志津子, 三上洋

(3)連携研究者

北里大学東病院：千崎美登子，田中彰子

北里大学 病院：河村真理

白金研究所病院：荻原修代，小沢学，水漉美紀，
石黒富志子，大石八重子

群馬大学：青木繁伸

UCLA : Sarna, L., Danao, L.